



令和元年6月21日

「インフラわくわくツアー」第三弾！

～インフラを巡る地域密着型ツアーを催行する旅行会社を募集します～

北海道開発局では、より多くの方にインフラに親しんでいただくために、昨年度実施した「インフラ歴史ツアー」の続編として、ツアーのテーマに「歴史」はもとより、地域の「産業」、「文化」、「食」といった様々な要素を取り入れた「インフラわくわくツアー」を実施します。

この度、第三弾として「釧路編」、「十勝編」を催行する旅行会社を募集します。

「インフラわくわくツアー」は、北海道開発局の施設に加え、地域の関係機関の施設もメニューに取り入れることで、ストーリー性を持った見学メニューや解説を行い、インフラの整備と地域発展の関係を実感できる内容としています。

記

1 ツアーテーマ

- (1) 「釧路編」 ”五感で感じよう！「地域の産業を支える釧路港の歴史」”

主要な産業である酪農を物流から支える釧路港の役割とインフラ整備の効果を実感する。

- (2) 「十勝編」 ”五感で感じよう！「農業王国十勝の開拓の歴史」”

十勝開拓の歴史に触れ、十勝の農業とインフラが食の安全・安心に欠かせないことを実感する。

2 募集期間 令和元年6月24日（月）～令和元年7月5日（金）

3 申込み方法等 応募要領、申込み様式、申込み先等については、北海道開発局ホームページをご参照ください。

URL : <https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/renkei/splaat0000011rb5.html>

4 ツアー概要等 詳細は別紙をご参照ください。

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

開発監理部 開発連携推進課 開発企画官 宮崎 貴雄（内線5433）

開発監理部 開発連携推進課 開発専門官 長南 哉（内線5441）



北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>

○インフラわくわくツアー(釧路編)

【概要】

“五感で感じよう！”地域の産業を支える釧路港の歴史”

ツアーテーマ 『地域の暮らしと産業を支える「釧路港」の歴史』

◇「釧路港」は、1899(明治32)年に開港し、当時は普通貿易港(米、麦、石炭、硫黄等)に指定されていました。現在は、酪農や農業、水産業の盛んな地域に位置する重要な港湾であり、北海道の産業とともに発展し、世界に開かれた港として、さまざまな役割を持っています。

◇釧路港では、飼料となる穀物の安定的供給と安価な輸送を実現するため、大型船舶による大量一括輸送を可能とする整備が行われています(平成23年「国際バルク戦略港湾」選定)。また、ひがし北海道地域の搾りたての生乳や季節ごとの農畜産物が、RORO船(貨物を積んだトラック等が船尾や船側にあるゲートからそのまま乗り降りできる船舶)により釧路港から首都圏へ向けて毎日輸送されるなど、日本有数の食糧供給基地であるひがし北海道地域の物流拠点として、重要な役割を果たしています。

◇本ツアーでは、ひがし北海道の主要産業である酪農を支える釧路港の役割や開港から現在に至るまでの歴史を現地を巡りながら学び、地域の産業の変遷とインフラ整備の成果を体感します。

催行予定

令和元年9月～10月の各月1回(全2回)【月、土日祝日不可】(日程は調整の上決定)

ツアー定員

各回 20名

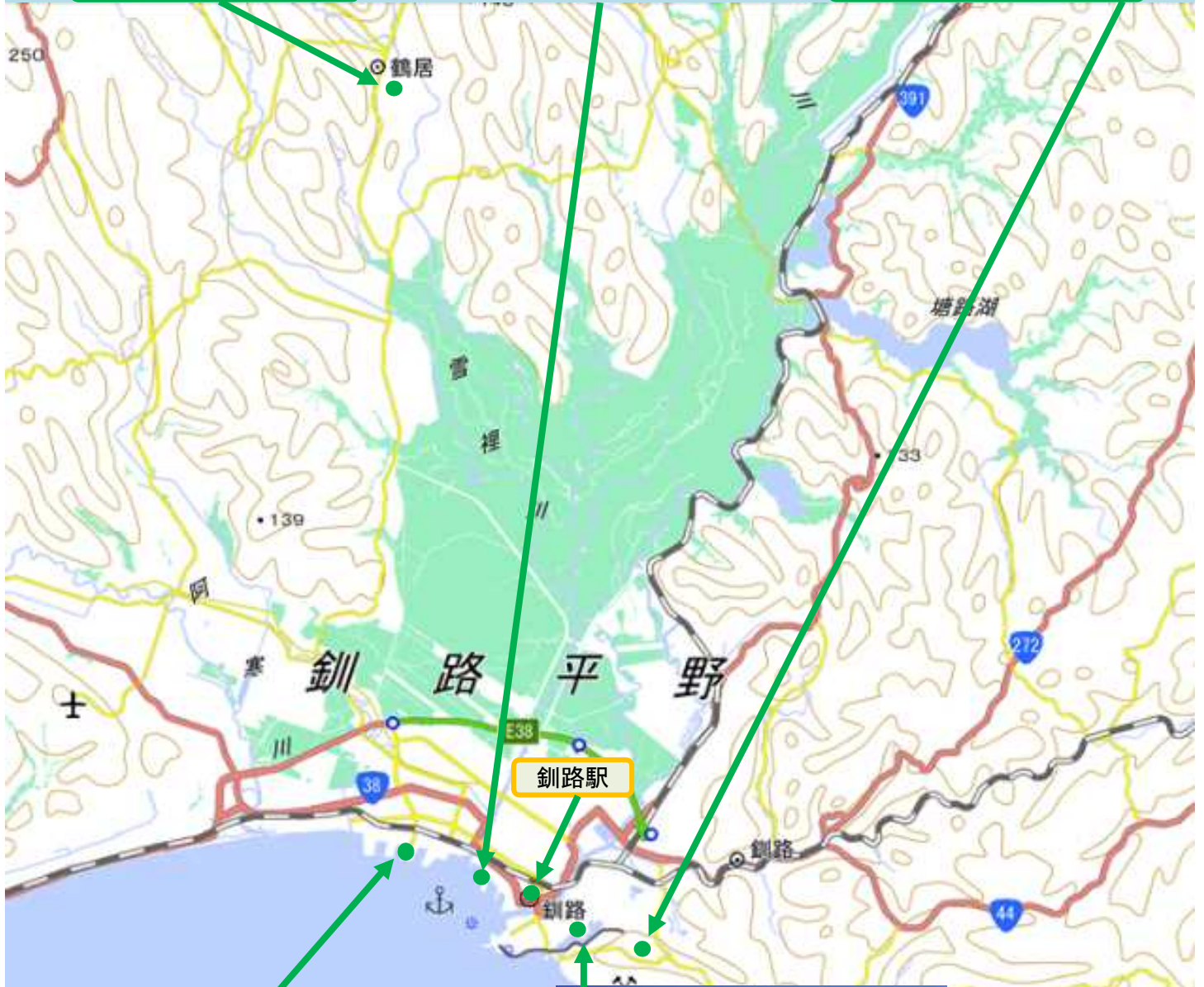
諸条件等

- ツアーを企画する際は、以下の「メニューリスト」から自由に選択いただけます。ただし、(★)印のメニューは必須とさせていただきます。この他にもグルメ、観光スポットなど行程に組み入れていただけます。
 - メニューリスト「1」では、釧路市の協力により、学芸専門員が解説、ご案内します。
 - メニューリスト「2」では、栄和サービス(株)の協力により、職員が解説、ご案内します。
 - メニューリスト「3」では、鶴居村の農業施設となります。地元農業者の協力により、解説、ご案内します。
 - メニューリスト「4」では、鶴居村の協力により、職員が解説、ご案内します。
 - メニューリスト「5」では、2班(10名ずつ)交替で、1班は船に乗り、現在の釧路港の整備状況を海上から見学していただけます。北海道開発局の職員が解説、ご案内します。もう1班は、「釧路市水産資料展示室(マリン・トポスくしろ)」で、釧路市の協力により、職員が解説、ご案内します。
- ※「釧路市立博物館」及び「旧太平洋炭礦炭鉱展示館」の見学には料金がかかります。
※この他の詳細については、催行応募要領をご参照ください。

メニューリスト

- | | | |
|--|-------------------------------------|------------|
| 1 釧路市立博物館(★) | 釧路の暮らしや産業の歴史を解説 | (所要目安45分) |
| 2 旧太平洋炭礦・炭鉱展示館 | 炭鉱産業の歴史解説 | (所要目安30分) |
| 3 農業施設見学 | 大規模な酪農施設の見学、解説 | (所要目安30分) |
| 4 鶴居村ふるさと情報館みなくる 「簡易軌道」の展示見学・解説 | | (所要目安30分) |
| 5 釧路港国際物流ターミナル・釧路市水産展示資料室(マリン・トポスくしろ)見学(2班交替)(★) | 釧路港の港湾整備状況と港湾活動を船上から見学・釧路港と水産業の歴史解説 | (所要目安120分) |

○見学可能な施設



出典: 国土地理院

○ インフラわくわくツアー(十勝編)

【概要】

“五感で感じよう！”農業王国十勝の開拓の歴史”

ツアーテーマ

『農業王国十勝の開拓の歴史と農業を支えるインフラを巡る』

- ◇北海道は食糧基地としての役割を担っています。中でもテレビドラマの舞台となっている十勝は「農業王国」とも言われ、北海道内の農業生産の4分の1を占めています。
- ◇十勝地方は、明治初期の民間移民により開拓が進められてきましたが、火山灰性の土壌や湿地が広く分布し、また、地域を流れる十勝川や札内川は、たびたび氾濫し水害を引き起こし、農業に適さない土地でした。
- ◇その後の開拓者の努力と現在まで続く治水事業や土地改良事業により、水害の抑制、農作物の生産性向上が実現し、安心して生活ができ農業が営めるようになりました。さらに道路事業により農業生産物の輸送の効率化が図られてきました。
- ◇本ツアーでは、日本を代表する食糧基地となるまでに発展してきた十勝の開拓の歴史に触れ、農業を支えるインフラを見学し、さらに農業体験等を通じて、十勝の農業とインフラが日本の食の安全と安心に欠かせないものであることを体感します。

催行予定

令和元年9月～10月の各月1回(全2回)【土日祝日可】(日程は調整の上決定)

ツアー定員

各回 40名(見学施設に十勝ダム、千代田新水路を選択した場合は20名までとなります。)

諸条件等

- ツアーを企画する際は、以下の「メニューリスト」から自由に選択いただけます。ただし、(★)印のメニューは必須とさせていただきます。この他にもグルメ、観光スポットなど行程に組み入れていただけます。
 - メニューリスト「1」では、帯広百年記念館の協力により、学芸員が解説、ご案内します。(9月23日まで土日の対応は不可となります。)
 - メニューリスト「2」「3」「4」「5」では、北海道開発局の職員が解説、ご案内します。
 - メニューリスト「6」「9」では、自由見学となります。
 - メニューリスト「7」では、内容により施設が異なります。(修学旅行等の対応により体験不可となる場合があります。)
 - メニューリスト「8」では、ビート資料館の協力により、職員が解説、ご案内します。
- ※この他の詳細については、催行応募要領をご参照ください。

メニューリスト

1 帯広百年記念館(★)	十勝の開拓の歴史について解説	(所要目安60分)
2 十勝ダムまたは札内川ダム(★)	ダム内部の見学と治水事業の解説	(所要目安90分)
3 畑地かんがい事業現場(★)	大口径パイプラインの見学と畑地かんがい事業の解説	(所要目安20分)
4 千代田新水路	千代田新水路及び魚道の見学	(所要目安90分)
5 国道274号日勝峠(清水防災ステーション)	平成28年度に発生した大雨による災害とその復旧について解説	(所要目安30分)
6 ナイタイ高原牧場	昭和41年に造成された、日本一広い総面積1,700ha(東京ドーム358個分)の牧場の見学	(所要目安30分)
7 農業体験	収穫体験、馬耕体験、バター作り体験 乳搾り体験、アイスクリーム作り体験、酪農講話など	(所要目安90～120分)
8 ビート資料館	砂糖の原料となるビート栽培や糖業に関する内容について解説	(所要目安60分)
9 神田日勝記念美術館	神田日勝の記念美術館見学	(所要目安30分)

○見学可能な施設

十勝ダム
北

牧場体験

ナイトイ高原牧場

バター作り体験

千代田新水路

帯広駅

十勝清水防災ステーション

帯広百年記念館

神田日勝記念美術館

氷山

アイスクリーム作り体験

農業体験

札内川ダム

畑地かんがい事業

出典：国土地理院